

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-98	高等学校	地理歴史科	地理総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	地総 002-901	地理総合		

1. 編修の基本方針

(1) 高校生が主体的な学習を展開できる教科書

- ・高校生にとって身近な話題や具体的な事象を取り上げて興味を引き、本文記述は内容の精選や平易な表現での叙述に努めたほか、側注欄や巻末の「用語解説」で用語の意味を簡潔に説明し、生徒が主体的に教科書を読み進められるようにした。
- ・各項の冒頭に学習課題(Q)を提示し、興味・関心や問題意識をもって学習に取り組めるようにした。項末には、当該部分の学習内容のポイントとなる事項を押さえるための「チェックA」および「チェックB」を設け、学習者が自主的に学習を広げられるようにした。
- ・章末には学習事項の「まとめ」を掲載し、自宅での復習を行いやすくした。
- ・章の冒頭では学習への動機付けを目的とした「WARM UP」、章末には学習事項を活用してプレゼンテーションなどを行うことを想定した「TRY」を設け、生徒が主体的に学習する場面を多く設けた。
- ・興味をもったテーマの学習を主体的に深めたり広げたりできるよう、本文ページの学習内容に関連して、内容を深める「発展」や、幅広い地域の話題に触れる「GLOBAL REPORT」などの特設ページを随所に設けた。また、巻末には、地理に関連する実験を紹介する「ジオ・ラボ」を掲載しており、中学校理科の既習事項と関連づけて地理の学習内容に慣れ親しめるようにした。

(2) 地理的な技能を磨き、資料を活用して考察する力を培う教科書

- ・地図やグラフなどの資料を読み取って活用できるように、基礎的・基本的な技能を身につける「SKILL UP」を設けた。
- ・「SKILL UP」のうち「Web GISを使ってみよう」と題したものは、例題と解答の手順を示し、GISを使った学習の最初のハードルが低くなるようにした。
- ・また、「SKILL UP」として「統計資料から現代世界を読み解こう」、「地図から自然災害を読み解こう」など、資料を読み取った結果をもとに考察を促すページを新設した。
- ・本文ページの資料には、読み取りのポイントを示した「読み取ろう」を付し、資料を活用した考察の手がかりとなるように工夫した。
- ・ほぼすべての見開きに地図を掲載し、さまざまな種類の地図の読み取りを反復して行えるようにした。
- ・生徒が自ら演習を行えるように、巻末の「ミニ探究」では、資料の読み取りに関連する練習問題を用意した。

(3) 教室での学習を現代社会での生活や地球的課題とつなげる教科書

- ・地理の学習が教室にとどまるものではなく、現代生活のさまざまな場面につながっていることや地球的課題を読み解く視点となることが伝わるように、本文ページや「GLOBAL REPORT」では高校生にとって身近なテーマや、ニュース等で話題になっている事項を積極的に取り上げている。
- ・「WARM UP」と「TRY」では、卒業後の仕事での場面という設定でも課題を設けており、地理の学習が将来の仕事に生きるということを間接的に伝え、学習の意欲が向上するように工夫している。
- ・地球的課題を取り上げる単元では、国際機関や民間企業、NGOなどのさまざまな立場から地球的課題の解決に取り組む人のインタビューである「国際協力の最前線」を設け、人の顔が見えることで学習内容をより現実的なものとして捉えられるようにした。また、キャリア教育にも資するように、進路選択の動機についても取り上げたコラムの拡大版をウェブページに掲載する。
- ・防災について学ぶ単元の末尾には「防災アクション」という特設ページを設け、本文ページでの学習内容をもとに、生徒自身が生活する地域での防災の取り組みにつながるように留意した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
■ 巻頭 この世界遺産はどこだろう はじめに 地理を学ぶ5つの視点	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地の世界遺産を取り上げることで、環境の保全に寄与する態度や伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした（第4号・第5号）。 地理の学習を地球的課題と関連づけて概説し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした（第5号）。 幅広い視野から社会的事象の意味を地理的な視点を用いて理解し、考察できるように、5つの視点について解説した（第1号）。 	巻頭 1～2 巻頭 3 1 ページ
■ 第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 ● 第1章 地図と地理情報システム 1 節 私たちが暮らす世界 2 節 地図や地理情報システムの役割	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野から社会的事象の意味を確実に理解し、考察できるように、文章を丁寧に記述した（第1号）。 我が国が抱える領土をめぐる問題を正しく理解し、国際平和のために解決すべき課題であることを意識できるようにした（第5号）。 地理学習の基盤となる地理的技能を確実に習得できるように「SKILL UP」を随所に配置した（第1号）。 社会で働く場面を想定した問いに取り組み、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。 	全体 14～15ページ 10, 13, 16, 19, 21, 23～27, 32ページ 28～29ページ
● 第2章 資料から読み取る現代世界	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野から社会的事象の意味を確実に理解し、考察できるように、文章を丁寧に記述した（第1号）。 社会で働く場面を想定した問いに取り組み、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。 さまざまな種類の統計資料を掲載し、統計資料の読み取りに慣れることができるようにした（第1号）。 ジェンダー格差に関する統計資料を用意し、他国と比較した際に日本でみられる課題にふれて、今後めざすべき社会の在り方を考え、社会参画の意識を醸成できるようにした（第3号）。 	全体 34～35, 48～49ページ 46～47, 51ページ 46ページ
■ 第2編 国際理解と国際協力 ● 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1 節 生活文化の多様性と国際理解 2 節 生活文化と自然環境①地形 3 節 生活文化と自然環境②気候 4 節 生活文化と社会環境①産業 5 節 生活文化と社会環境②宗教・民族	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野から社会的事象の意味を確実に理解し、考察できるように、文章を丁寧に記述した（第1号）。 社会で働く場面を想定した問いに取り組み、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。 他者の文化を理解、尊重する重要性や、文化として歴史的に形づくられた宗教のちがいを互いに尊重し合う必要性を説いている（第3号）。 アジアの多様な稲作景観という生活文化を事例に、多様な地理的環境について概説し、幅広い知識・教養を 	全体 54～55ページ 57, 98ページ 58～59ページ

	<p>身につけられるほか、アジアに対する国際理解を促すようにした（第1号・第5号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の食文化を事例に、歴史的背景と生活文化との関係を学べるようにしており、歴史での学習事項との有機的な関連をもたせるようにした（第1号）。 ・さまざまな動物の写真を掲載し、各地に生息する動物にも目を向け、生命を尊ぶ態度を養えるようにした（第4号）。 ・小売業や情報産業など、高校生にとって身近な産業と生活文化との関連を取り上げ、生活との関連を重視した（第2号）。 ・国家と民族に関する記述では日本のアイヌ民族を取り上げ、国内の異なる文化を敬愛する態度を養う端緒となるようにした（第5号）。 ・「GLOBAL REPORT」では学習内容に関連した地域のトピックに触れることで幅広い知識と教養を身につけ、国際理解を深められるようにした（第1号・第5号）。 ・社会におけるマイノリティの権利と尊厳を訴えるパレードを取り上げ、公共の精神を養えるようにした（第3号）。 	<p>60～61ページ</p> <p>73, 75, 77, 81ページなど</p> <p>94～97ページ</p> <p>101ページ</p> <p>102～111ページ</p> <p>108～109ページ</p>
<p>●第2章 さまざまな地球的課題と国際協力</p> <p>1節 地球環境問題</p> <p>2節 資源・エネルギー問題</p> <p>3節 人口問題</p> <p>4節 食料問題</p> <p>5節 居住・都市問題</p> <p>6節 民族問題・紛争と平和の構築</p> <p>7節 持続可能な社会の実現をめざして</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視野から社会的事象の意味を確実に理解し、考察できるように、文章を丁寧に記述した（第1号）。 ・社会で働く場面を想定した問いに取り組み、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。 ・気候変動、プラスチックごみ、森林減少、砂漠化などの自然環境問題を取り上げ、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした（第4号）。 ・地球的課題に関連して、日本の資源・エネルギー問題や日本の人口問題を取り上げ、地球的課題を日本のスケールでも捉えられるようにし、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした（第3号・第5号）。 ・民族問題や難民問題、紛争について取り上げ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした（第5号）。 ・SDGsに関連して、高校生の取り組みを紹介し、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした（第4号・第5号）。 ・「GLOBAL REPORT」では学習内容に関連した地域のトピックに触れることで幅広い知識と教養を身につけ、国際理解を深められるようにした（第 	<p>全体</p> <p>118～119ページ</p> <p>120～125ページ</p> <p>130～131, 136～137ページ</p> <p>146～151ページ</p> <p>155ページ</p> <p>156～167ページ</p>

	<p>1号・第5号)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な日用品や食品の原料が採れるアブラヤシの栽培が拡大することで農村にどのような影響があらわれるのかを丁寧に記し、日常生活と環境保全との関連を捉えられるようにした(第2号・第4号)。 イギリスのEU離脱を地理的な視点から捉え、国際理解を深められるようにした(第1号・第5号) 	<p>156～157ページ</p> <p>160～161ページ</p>
<p>■第3編 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>●第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色 2節 さまざまな自然災害と防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野から社会的事象の意味を確実に理解し、考察できるように、文章を丁寧に記述した(第1号)。 具体的な場面設定をした問いに取り組み、防災と生活との関連を重視した(第2号)。 日本の自然環境の特色を丁寧に記述し、郷土への理解を深められるようにした(第5号)。 さまざまな災害を取り上げ、生命を尊重する態度を養えるようにした(第4号)。 避難生活では、子どもや高齢者、外国人など、助けを必要としている人がいることを明記し、他者を思いやって地域社会の形成に参画する態度を養えるようにした(第3号)。 	<p>全体</p> <p>174～175, 200～201ページ</p> <p>176～179ページ</p> <p>180～191ページ</p> <p>196ページ</p>
<p>●第2章 生活圏の調査と地域の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習に必要な技能を身につける「SKILL UP」を随所に配置し、探究的な学習を主体的に進められるようにした(第1号)。 聞き取り調査などで訪問する相手へ調査をお願いする際の例を丁寧に示し、主体的に社会に関わる意識や態度を養えるようにした(第5号)。 	<p>207～213ページ</p> <p>210～211ページ</p>
<p>■巻末 総合問題にチャレンジ 用語解説「ジオ・ワード35」 日本の都道府県 ジオ・ラボ 世界のおもな農産物 世界のおもな家畜 世界のおもな鉱産資源 世界の国々</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野から社会的事象の意味を確実に理解し、考察できるように、文章を丁寧に記述した(第1号)。 世界のさまざまな農産物・家畜・鉱産資源を写真・統計資料とともに取り上げ、本文での学習内容を補充し、関連した知識を確実に習得できるようにした(第1号)。 	<p>220～222ページ</p> <p>巻末4～9</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・コラムや特設ページを各所に設けるとともに、写真・地図・図表を豊富かつ大きく見やすく掲載することで、生徒が意欲的に楽しく学べる教科書をめざした。
- ・ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすさを向上させた。
- ・地図やグラフなどではカラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性などにかかわらず学習を進められるよう留意した。
- ・再生紙と植物油インキを使用し、環境に配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-98	高等学校	地理歴史科	地理総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	地総 002-901	地理総合		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた内容の充実

- ・各項の冒頭に学習課題（Q）を提示し、当該部分の学習内容でポイントとなる部分を明確にして学習を進められるようにした。項末には、ポイントとなる用語を振り返ったり、因果関係を整理したりするための問いかけ「チェックA」および「チェックB」を設け、学習者が自主的に学習を広げられるようにした。
- ・章の導入・末尾には、社会生活の中の場面等を設定した活動である「WARM UP」と「TRY」を配置し、学習のための課題ではなく、現実味のある課題を解決する活動を用意し、生徒の学びに向かう力を育てられるようにした。

(2) 特別支援教育に関わる適切な配慮

- ・資料の掲載部分を、文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別することで、紙面の構造を明確化し、特別支援教育の観点での学習のしやすさを向上させた。
- ・教科書全体を通してユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすさを向上させた。
- ・色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用するとともに、グラフや地図などでは、凡例をできるだけ使用せずに図中に直接示すようにしたり、読み取りづらい破線や点線を極力減らしたりした。

(3) 歴史的背景と関連づけ、地球的課題について総合的に考察させる工夫

- ・本文ページの左下のミニコラム「つぶやき」では歴史に関連したトピックを豊富に掲載し、歴史総合などでの学習事項と関連づけて指導できるようにした。
- ・地域のトピックを取り上げた「GLOBAL REPORT」では、アングロアメリカやオセアニアにおける移民の歴史や、インカ帝国の栄えたラテンアメリカの生活文化など、歴史との関連を図りやすい題材を数多く取り上げている。
- ・民族問題など、地球的課題を取り扱う単元では歴史的背景について丁寧に記述しており、現代の地球的課題を多面的・多角的に考察できるようにした。

(4) 地図や地理情報システムなどを用いる技能の育成

- ・地理の基礎的・基本的な技能を身につける「SKILL UP」を設け、地図を読み取る技能を育てるほか、表現したいテーマや統計資料に合わせて地図の種類を選択する技能を育てるようにした。
- ・地理情報システム（GIS）については、第1編第2章において「Web GISを使ってみよう」と題した「SKILL UP」を設け、まずはGISに慣れ親しめるように丁寧に操作方法を説明している。
- ・GISをその後の地理の学習に活用できるよう、教科書上において、「地理院地図」で表示した3Dイメージや色別標高図の例や、「重ねるハザードマップ」を活用した例を積極的に掲載した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	A-(1)	7～52 ページ	15
第1章 地図と地理情報システム			9
1節 私たちが暮らす世界	A-(1)	7～32 ページ	(3)
2節 地図や地理情報システムの役割			(5)
第2章 資料から読み取る現代世界	A-(1)	33～52ページ	6
第2編 国際理解と国際協力	B-(1), (2)	53～172 ページ	29
第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境			17
1節 生活文化の多様性と国際理解	B-(1)	53～116 ページ	(2)
2節 生活文化と自然環境①地形			(3)
3節 生活文化と自然環境②気候			(5)
4節 生活文化と社会環境①産業			(4)
5節 生活文化と社会環境②宗教・民族			(2)
第2章 さまざまな地球的課題と国際協力			12
1節 地球環境問題	B-(2)	117～172ページ	(2)
2節 資源・エネルギー問題			(2)
3節 人口問題			(2)
4節 食料問題			(1)
5節 居住・都市問題			(2)
6節 民族問題・紛争と平和の構築			(1)
7節 持続可能な社会の実現をめざして			(1)
第3編 持続可能な地域づくりと私たち	C-(1), (2)	173～213 ページ	16
第1章 自然環境と防災			11
1節 日本の自然環境と特色	C-(1)	173～204 ページ	(2)
2節 さまざまな自然災害と防災			(8)
第2章 生活圏の調査と地域の展望	C-(2)	205～213 ページ	5
※予備時間は、生徒の自主的な学習活動の時間や評価などにあてる時間		予備時間	10
		計	70